

1. 「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿

実現すべき教師の姿

- 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- 子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たしている
- 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- 教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる。
- 新たな教師の学び**（主体的な姿勢、継続的・個別最適・協働的な学び）

実現すべき教職員集団の姿

- 学校組織のレジリエンスを高めるために、**教職員集団の多様性が必要**。
- 教師一人一人の専門性向上と、民間企業等の勤務経験のある教師などを取り組むことで、教職員集団の多様性が一層向上。
- 学校管理職のリーダーシップの下、**心理的安全性の確保、教職員の多様性を配慮したマネジメントも不可欠**

2. 子供たちの多様化と社会の変化

3. 教員養成、免許、採用、研修に関する制度及び実態

制度及び実態

既に実施した制度改正

検討事項

「日本型学校教育」は国際的に高く評価される一方、**教師の勤務時間が長い**

子供たちの多様化（特別支援、外国人児童生徒、生徒指導上の課題など）

Society5.0時代の到来、特に**教師と児童生徒の情報活用能力**の課題（例：高校「情報」など）

臨時的任用教員等の「**教師不足**」問題

これまでの取組み

- 新学習指導要領の実施
- 小学校35人学級
- GIGAスクール
- 学校の働き方改革 等

他の会議体からの提言・要請

- 骨太の方針
- 規制改革実施計画
- 内閣府CSTI
- 教育未来創造会議

養成

- 普通免許状の取得には教職課程(教育実習を含む)で所定の単位の修得が必要
- 教育実習の一部は学校体験活動で代替可能
- 小学校養成課程を設置する私大は10年で3割増

免許

- 普通免許状の授与件数は、**幼・中・高で減少、小学校で横ばい、特別支援学校で増加**（特支の6割は現職教育によるもの）
- 特別免許状の授与件数は増加。ただし、絶対数が少ない。高校の特定教科（英語・看護等）に偏り

採用

- 7月に1次試験、9～10月に合格発表・内定
- 採用倍率低下**(大量退職、特別支援学級の急増を反映した採用増と、それに伴う既卒受験者層の減少)、**新卒受験者は小は横ばい、中高は低下**
- 民間企業等経験者の割合が少ない**

研修

- 任命権者が、育成指標及びそれに基づく体系的な教員研修を策定し、それに基づき研修を実施

- 教員養成フラッグシップ大学の創設
- 介護等体験施設の対象拡大
- 教職課程の義務教育特例の創設
- ICT活用に関する内容の充実
- 教職特別課程の修業年限弾力化

- 教員免許更新制の発展的解消**
- 他の学校種の免許状を取得する際の最低在職年数の緩和
- 特別免許状授与指針の改訂

- (各自治体の創意工夫による採用)

- 教員免許更新制の発展的解消に伴う、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた仕組みの構築**

- 教師に求められる基礎的な資質能力と教職課程の見直し
- 特定分野に強みや専門性を持った教師の養成・採用
- 教員養成大学・学部、教職大学院の機能強化・高度化
- 教育委員会における大学・教職大学院との連携協働の促進

- 特別免許状制度
- 教員資格認定試験
- 多様な専門性を持つ社会人をより積極的に採用しやすくなるような環境整備

- 教職への志望動向に関する実態把握
- 人物重視の多面的な採用選考
- 教員採用選考試験の実施スケジュールの在り方
- 効果的・効率的な教員採用選考試験の実施

- 新たな教師の学びの姿の実現に向けた体制整備
- 学校管理職（特に校長）に求められる資質能力の明確化